

泉

若葉学習会専修学校報 No.638

2020 AUGUST



たのしみは学校へ来て友達と
一緒になって笑い合う時

倉吉校舎 小学6年 田中 杏

君たち 僕たち



イズム大学受験科
井中 陽平さん

1991年、日本で初めてリアモーターカーが都営地下鉄大江戸線で開通しました。以後、神戸、大阪、福岡などで、2015年には仙台で開通しました。このリアモーターカーを見て、科学の凄さを感じ、工学部への進学という夢を温めたのが、今回紹介する井中陽平君です。高校では弓道部に属していたためか、とても集中力があり、穏やかな生徒です。

そんな彼の座右の銘は、「大切なのは真実に向かおうとする意志だ。」です。これはジョジョの奇妙な冒険に登場するもので、結果を重視するあまり、過程を軽視することを戒め、人は死んでも終わりではなく、残された人に意志が伝わっていくという作者の思いが顕れた言葉です。正に科学する心だと思えます。

先日、新型新幹線E956型、通称ALFA-Xの仙台での試運転の様子が報道されました。鼻の長さが特徴的なこの新幹線は、世界最速の時速360kmでの走行が可能だそうです。きっとまた全国の若者に工学への夢を与えることでしょう。

(担当) 河田



米子校舎 高校2年
篠原 結女さん

取材前に持っていた篠原さんの印象は「真面目で少し天然」。実際に取材するとまさにその通りで、誠実に答えてくれているのにもかかわらず、終始笑わせてくれました。

そんな彼女は今、一つの大きな目標を持っています。それは中学校か高校の国語の教師になること。その目標を持つきっかけとなったのは彼女のご両親なのだそう。小学生に上がり勉強につまずいた彼女に、わかりやすく優しく教えてくださるご両親の姿にあこがれを持ったと言います。幼い頃の家族とくっついていながら今の目標を形づくっているなんて素敵ですね。

あと十年も経てば、彼女は立派な教師となり、真面目に明るく指導していることでしょう。その日のために今、彼女は毎日継続して勉強に励んでいるそうです。しっかりと将来を見据えて頑張る姿は本当に素晴らしいです。

ぜひ多くの生徒を真面目で明るい人に導く教師になってください。応援しています。

※高二国語受講生が人選し取材し作成したものの中から北野萌子さんの記事を採用しました。

(担当) 門脇

卒業生はいま!



東京理科大学 理学部
応用化学科 3年
田中 智也さん

office&campus



「大学に入って筋トレとダイエットをするようになりました。そのおかげで高校時代から23kg痩せることができました。筋トレの達成感最高ですよ!このことはぜひ載せてください(笑)」という田中君。23kgって凄すぎませんか!?それだけ痩せただけあって、外見はずいぶん変わりましたが、彼の人柄からくる周りを包み込むような優しい雰囲気は当時のままで、まさにさわやか好青年です。うーん、私も筋トレをしてみたいけど、今より体重が減ってしまうのはチヨット…残念だけど却下かな。

理科大での専攻は化学です。液体の中に溶けている金属の量を測定したり、有機化合物を複数の試薬から合成したりしているそうです。化学に興味がない人からすると「そんなことをして何がおもしろいの?」と思われるかもしれませんが、「これらの実験を習得すれば食品や化粧品成分の測定や、薬の成分を作ることだってできます!」と自身の研究に胸を張ります。

光に興味があるため、将来は研究者になり、発光材料を作りたいと考えている田中君。今でもLEDなどの発光材料がありますが、より機能性が高く、なおかつ消費エネルギーが少ないものを見つけて出して実用化することが彼の目標です。そのためには大学院にいかなければならぬので、まだまだ勉強の日々は続きます。

最後に皆さんへのメッセージです。「分からないことを、わかったふりには絶対にしないでください。恥ずかしいと思うプライドを捨てることで、人は成長できます。」

(担当 小西)

地元根付いて30年。境港校舎を紹介します。



学園NEWS

境港校舎



若葉は創業六十有余年の長い歴史があります。私も六年間、生徒として長く通学していました。

今回紹介する境港校舎も三十年以上の長い歴史があります。当初は今とは違う場所でしたが、平成十九年四月に現在の校舎が建設され、新たなスタートを切りました。校舎としてはまだ十三年ですが新しく、建物も非常に綺麗です。玄関を入るとガラス張りの教務室に、一階と二階には大教室。十五席もある自習室を完備し、少人数制用の指導教室もあります。校舎の裏の大きな駐車場も便利です。土地柄、通っている生徒は境一中・二中・三中ばかり。みんな仲がよいけれど、勉強は真剣モード。境港校舎の近くを通られたときは、ぜひ、ぜひのぞいてみてください。

(担当: 角)

職員随想

菓ごもり雑感

校長 小田原 利典



新型コロナウイルス感染の嵐が全世界に吹き荒れ、その対応に各国がやっきとなっている。わが国は多少落ち着いたとはいえず、東京都を始め予断を許さない状況が続いている。感染が人と人を介して起こるので、日常生活に今までにない制限や配慮が求められる。そのため社会活動全般に多大なブレーキがかかり打撃を与えてきた。集団生活が基本である学校教育の現場にも影響は大きく、休校措置等がなされる中、情報機器を利用したオンライン授業が矢継ぎ早に導入されている。若葉学習会も塾や予備校では早速導入を検討し、対応してきている。クラスク高については、コロナとは関係なく、昨年からWEB学習が導入され、生徒はオンライン授業を一年間体験しているため、休校の影響は最小限に留めることができている。

昨年末からこの方、私の生活周辺でどんな変化が起きたのだろうか。できるだけ人と会わないようにということだから、まず、家にいるしかない。いわゆる「菓ごもり」というやつだ。家にいて、TVを見たり、インターネットにアクセスしたり、読書をしたり、庭木・菜園の手入れしたりとか、そんな生活が続いている。

2月に家の水洗トイレが壊れ、急ぎよ新しい機器との交換が必要になった。ところがコロナの影響で、中国から調達する部品が入らず、製品が組み立てられないという。



たまたま完成品が全国で1台だけあるというので、その機器を押さえ購入することで難を逃れた。その後、ニュースでトイレが付かなくて、新規

開店の店や、住宅を新築した人が大変困っているということを知った。このようなサブライチエーション(商品の流れ)の問題を始め、グローバルイズム(地球主義)一辺倒の考え方にコロナ問題は警告を与え始めた。TVをつけると、今まで聞かなかった用語のオンパレードだ。「クラスター」「ロックダウン」「ソーシャルディスタンス」「ステイホーム」「テイクアウト」「東京アラート」などなど。おいおいこは日本だぜと言いたくなる。「ステイホーム」は外国人から見れば、命令調の乱暴な言葉らしい。TVはプロ野球観戦が毎年4月からの一番の楽しみなのだが、今年は開幕保留だ。そのため映画や昔のドラマを録画して見ているが、NHKのEテレで、「100分de名著」という番組に出会った。番組ではカントの「純粹理性批判」を読み解いていた。講師は哲学者の西研という人で、解説がわかりやすく面白い。やがて西研さんの著作を購入し、今まで勉強したことのない哲学の系譜をたどることはまっとう行った。現在、番組では吉本隆明の「共同幻想論」をやっている。この本は自分が20歳のころ飛びついた著作だが、当時、難解で理解できなかった。これも再読することにした。かくして読書三昧の生活が続くようになった。これって良いことなのだろう。菓ごもりも三文の徳か。巷では任天堂のゲーム機がバカ売れなのだぞうだ。

ともかく、目に見えない得体の知れない相手と対峙しているのだから、ジタバタしても仕方ない。身を守りながら、社会活動を何とか維持し、ひたすら治療薬と予防ワクチンがつけられるのを待つしかない。予防ワクチンは今や世界各国がしのぎを削って研究開発に取り組んでいる。日本では大阪大学とそのベンチャー企業であるアジエスが実用化を目指し、6月末から臨床試験を始めた。科学技術立国・日本の健闘を祈ろう。